建設系廃棄物処理の問題と新技術

コンクリートと再生砕石の現状と未来

行き場のない再生砕石

建設業界、廃棄物処理業界、解体業界を悩ませている問題に、再生砕石の問題がある。昔から、大型解体の少ない大都市圏では再生砕石の行き場はなく、大型解体の多い地方に行けば足りない状況は続いており、近年はそれが強まっている。こういった流れは当面は続くと考えられている。現在、首都圏のある解体業者によると、「特に大きな工事になると、まず再生砕石の行き先を見つけないと工事をはじめられない」という。いくら解体しても処理・リサイクルする先がなければ工事を進めることができない。そのため、工事全体が遅れることもあるという。

関東圏で最大規模の再生砕石を扱う

黒姫グループ

脱炭素で高付加価値化
再生砕石にCO_2吸収量を掲示

関東圏では、首都圏の再生砕石が北関東に運ばれるケースが多い。そして、ここに乗るコストは処分量に転嫁せざるを得ず、これらは最終的には建築コストにも乗ってくる。

こういった中、関東圏でも最大級の規模で再生砕石の製造を行っている黒姫グループ（東京・足立、唐澤明彦社長、☎03・3896・7111）、青海（東京・足立）、広域環境開発（千葉県・袖ケ浦市）、埼玉総業（埼玉県さいたま市）は、現在、脱炭素をキーワードに再生砕石「CO_2－Nomicom」として販売している。これは業界で唯一、固定化できるCO_2を実験的に定量化した材料となる。

同社では、この性質を生かし、再生砕石の販売に役立てている他、再生骨材としてコンクリート二次製品へ再生砕石の大気中のCO_2吸収能力に着目して、付加価値向上を進めている。黒姫グループ4社であり黒姫（本社：